

This map of Osaka illustrates the locations of various archaeological sites and the city's administrative boundaries. The map is color-coded to show different districts (wards) and their borders. Key features include:

- Legend:**
 - 遺跡の範囲 (Range of the site): Indicated by a light purple shaded area.
 - 紹介する調査地点 (Introduction site): Marked with a red dot.
 - 市境 (City boundary): Represented by a solid orange line.
 - 区境 (District boundary): Represented by a dashed pink line.
- Numbered Sites (1-13):**
 - 富光寺境内遺跡 (Tomimitsuji Temple Site)
 - 豊崎遺跡 (Toyosaki Site)
 - 中之島蔵屋敷跡 (Nakanoshima Warehouse Site)
 - 天神橋遺跡 (Tenjinbashi Site)
 - 天満本願寺跡 (Tenmabongwanji Temple Site)
 - 大坂城下町跡 (Osaka Castle Town Site)
 - 大坂城跡 (Osaka Castle Site)
 - 上本町遺跡 (Uemachō Site)
 - 四天王寺旧境内遺跡 (Shitennōji Old Temple Site)
 - 難波宮跡 (Naniwa Palace Site)
 - 瓜破遺跡 (Urabake Site)
 - 長原遺跡 (Nagahara Site)
- Geographical Features:**
 - Rivers:** The Arakawa River (荒川) and Yodo River (淀川) are shown in blue.
 - Districts:** Various districts are labeled, including 淀川区 (Yodogawa-ku), 北区 (Kita-ku), 都島区 (Tsudō-ku), 城東区 (Jōtō-ku), 鶴見区 (Tsurumi-ku), 東成区 (Tōsei-ku), 生野区 (Ikuno-ku), 平野区 (Hirano-ku), 東住吉区 (Tōzūjī-ku), 住吉区 (Sūjī-ku), 住之江区 (Sumiyoshi-ku), 西成区 (Saiō-ku), 浪速区 (Naniwa-ku), 港区 (Minato-ku), 此花区 (Sikanaka-ku), 大正区 (Taishō-ku), 西淀川区 (Seiyodogawa-ku), 阿倍野区 (Abenohara-ku), 天王寺区 (Tenjōji-ku), and 鶴見区 (Tsurumi-ku).
- Other Landmarks:**
 - 大阪歴史博物館 (Osaka Museum of History):** Located near the center of the map.
 - 難波宮跡 (Naniwa Palace Site):** A significant historical site in the Naniwa area.
 - 大坂城跡 (Osaka Castle Site):** The site of the original Edo-period Osaka Castle.
- Scale and Orientation:**
 - A scale bar at the bottom right indicates a distance of 4km.
 - The map is oriented with North at the top.

富光寺境内遺跡：①
鎌倉～室町時代：土師器・瓦器・白磁・青磁

豊崎遺跡：②
古墳時代前期：土師器・土鍾
中之島蔵屋敷跡(高松藩)：③
明治～大正時代：ガラス瓶・陶磁器・煉瓦
天神橋遺跡：④
室町時代：瓦器・土鍾・貝類
天満本願寺跡：⑤
古墳時代～飛鳥時代：土師器・須恵器・からしきけい韓式系土器

大坂城下町跡：⑥
奈良時代：土師器・須惠器

大坂城下町跡：⑦
古墳時代：土師器

江戸時代：中国産磁器・国産陶磁器・埴塼・焼塩壺・人形頭部

大坂城跡：⑧
豊臣期：金箔瓦・刻印瓦・埋納銭・国産陶器・貿易陶磁器

難波宮跡：⑨
奈良時代：重圈文軒丸瓦・軒平瓦

上本町遺跡：⑩
 奈良時代：墨書土器・製塩土器・動物骨
四天王寺旧境内遺跡：⑪
 奈良時代：墨書土器

瓜破遺跡⑫
後期旧石器時代：ナイフ形石器・サヌカイト剥片
長原遺跡⑬
弥生時代後期～古墳時代中期：弥生土器・土師器・木製品
平安時代：りよくゆう緑釉陶器・富寿神宝

令和6・7年度を中心とする大阪市内遺跡の発掘調査成果とともに、後期難波宮造営開始1300年を記念した講演会を開催します。

1) 田中 裕子(大阪歴史博物館 学芸員) 「大阪市内の発掘調査成果 ―令和6・7年度を中心―」	【日 時】 令和8年10月25日(日) 午後1時30分～4時30分(午後1時から受付開始)
2) 西本 昌弘 氏(関西大学 名誉教授) 「古代の難波津」	【定 員】 250名 【会 場】 大阪歴史博物館 4階 講堂
3) 栄原 永遠男 氏(大阪市立大学 名誉教授・大阪歴史博物館 名誉館長) 「難波市について」	【参 加 費】 1,000円 【参加方法】 インターネットによる事前申し込み(先着順)

担当学芸員が展示資料や見どころについて、わかりやすく解説します。

【日 時】 令和8年9月26日(土)、10月3日(土)、11月7日(土)
午後2時より30分程度

【担 当】 田中裕子(大阪歴史博物館 学芸員)

【会 場】 大阪歴史博物館 8階 特集展示室

【参 加 費】 無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要です)

【参加方法】 当日直接会場へお越し下さい(事前申し込み不要)。

【日 時】 令和8年11月15日(日)
午後2時～午後4時(午後1時30分より受付開始)

【定 員】 10組20名(小・中学生とその保護者)

【会 場】 大阪歴史博物館 8階 なにわ考古研究所・4階第1研修室

【参 加 費】 無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要です)

【参加方法】 インターネットによる事前申し込み(先着順)

※関連行事の詳細につきましては、当館ホームページ(<https://www.osakamushis.jp/>)にて、ご確認下さい。



会 期:令和8年9月9日(水)～11月23日(月・祝)
会 場:大阪歴史博物館 8階 特集展示室
展示担当:田中裕子

開館時間：午前9時30分～午後5時
※ただし入館は閉館30分前まで

休 館 日：火曜日
※ただし、9/22(火・祝)、9/23(水・祝)、
11/3(火・祝)は開館
9/24(木)、11/4(水)は休館

観 覧 料：常設展示観覧料にご覧になれます。

大 人	600円(540円)
高校生・大学生	400円(360円)

※()内は20名以上の団体料金

※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明提示)、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は無料



電車・バスで越しの方
大阪メトロ谷町線・中央線
「谷町四丁目」駅②号・⑨号出口
大阪シティバス「馬場町」バス停前

① 焼塩壺 ② 金箔瓦 ③ 青花片 ④ 石鏃 ⑤ 古代の瓦 ⑥ 刻印瓦

新発見!

なにあの
考古学
2026

特集展示

常設展示観覧料でご覧になれます。

会場 8階 特集展示室

Recent Archaeological Discoveries in Osaka, 2026

9/9 水 11/23 月祝

- 主催 大阪歴史博物館
■共催 大阪市教育委員会・(公財)大阪府文化財センター



大阪歴史博物館
Osaka Museum of History

1. 台地周辺のくらし

古墳時代以前（6世紀以前）

ながはら
長原遺跡では縄文時代～弥生時代の土器や石器（表紙写真④）が出土したほか、200基を超える粘土を採ったとみられる穴（群集土坑）から、弥生時代後期～古墳時代中期の甕や木製品が見つかりました。発掘調査地は生産域（モノづくりをする場所）として使われていたようです。



群集土坑出土の甕

弥生土器(左)、庄内式土器(中)、布留式土器(右)
弥生時代後期～古墳時代前期(3世紀) 平野区長原遺跡



鍬(なすび形木製品)

古墳時代中期(5世紀) 平野区長原遺跡



粘土を採ったとみられる穴（群集土坑）
弥生時代後期～古墳時代中期（3～5世紀）平野区長原遺跡

上町台地の西側には、大阪湾岸の砂浜上に営まれた弥生時代～平安時代のムラが埋まっています。今回の調査では、古墳時代に掘られた穴から、小さな壺と3点以上の高坏がまとまって見つかりました。



古墳時代のムラから見つかった土師器

古墳時代(4～5世紀) 中央区大坂城下町跡(下層)

2. 難波宮と中世のおおさか

飛鳥時代～室町時代（7世紀～16世紀）

なにわのみやあと
難波宮跡の調査では、飛鳥時代の前期難波宮の建物跡が見つかりました。朝堂院南門に接続する回廊（宮殿を囲む屋根つきの廊下）の一部と考えられます。建物跡の上の地層からは、奈良時代の後期難波宮に関わる瓦や凝灰岩の破片も見つかりました（表紙写真⑤）。



前期難波宮の建物跡

飛鳥時代(7世紀) 中央区難波宮跡



後期難波宮の瓦

奈良時代(8世紀) 中央区難波宮跡

長原遺跡では、条里制の水田跡が見つかり、水田の東西方向の大きな畦付近から平安時代の銭貨「富寿神宝」が、出土しました。水田祭祀に関わる可能性があります。



富寿神宝 平安時代(9世紀) 平野区長原遺跡

中国街道沿いに位置する富光寺境内遺跡では、白磁や青磁といった中国からの輸入磁器のほか、瓦器や土師器の灯明皿がたくさん出土しました。中世富光寺に関連する施設や、夜半まで活動していた旅宿などがあったようです。



輸入磁器や灯明皿

鎌倉時代～室町時代(12～14世紀)
淀川区富光寺境内遺跡

3. 城下町の整備と発展

豊臣期～江戸時代（16世紀後葉～19世紀）

大坂城跡の調査では、豊臣秀吉の時代の南北溝や建物跡が見つかり、中国・朝鮮半島産の陶磁器や国産陶器、金箔瓦・刻印瓦、大甕に納められていたとみられる埋納銭などが出土しました（表紙写真②・⑥）。屋敷地であったようです。

調査地は、江戸時代になると蔵奉行が置かれたようです。大坂城の石垣用に運ばれた大型石材が100点近く見つかりました。石材保管場所としても利用されたようです。

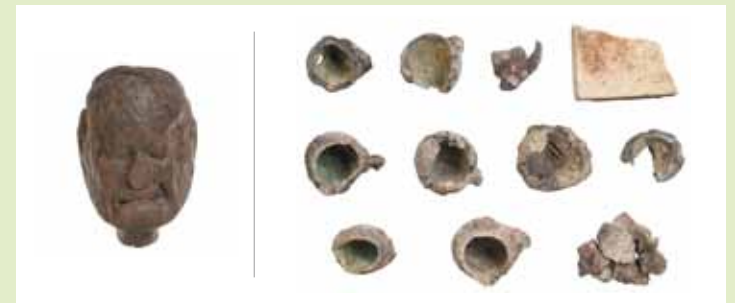


大型石材とその出土状況

江戸時代(17～19世紀) 中央区大坂城跡

江戸時代の大坂城下町跡では金属を溶かすための器である小型の坩堝が20点近く出土しました。真鍮の鑄造に関わる可能性があります。当時の手工業生産を知るうえで貴重な成果となりました。

また焼塩壺（表紙写真①）や中国産の磁器（青花、表紙写真③）、浄瑠璃人形の頭部とみられる木製品も見つかっています。



浄瑠璃人形頭部(左)と小型の坩堝(右)

江戸時代(17～19世紀) 中央区大坂城下町跡

4. 産業の近代化と中之島

明治時代～大正時代（19世紀～20世紀）

江戸時代の中之島にあった高松藩蔵屋敷には船入（藩専用の船着場）がありました。明治時代になると、船入は改造され、通信省海事局（後の国土交通省海事局）と大阪工業学校（後の大阪大学工学部）造船科がこれを共用しました。海運業の奨励や造船業技術者の養成が図られたようです。また隣地には銅線や銅板を製造した大阪製銅が置かれたため、煉瓦やインク瓶、硫酸瓶の可能性のある陶器、金属を溶かした坩堝など、産業の近代化を物語る遺物も出土しました。



明治時代に改造された船入

明治時代(19世紀) 北区中之島蔵屋敷跡



陶器製インク瓶、坩堝、煉瓦など

明治時代～大正時代(19～20世紀)
北区中之島蔵屋敷跡

5. 古代の難波津と難波市

古墳時代中期～奈良時代（5世紀～8世紀）

聖武天皇は神亀3年(726)に難波宮の再建を開始しました。後期難波宮造営開始1300年を記念し、古代の難波津と難波市をテーマとしたミニ展示を行います。



墨書土器「米家」「酒十」「米屋」

奈良時代(8世紀)
天王寺区四天王寺旧境内遺跡ほか